



## ヤスミン植月千春 カーヌーン(アラブの琴)演奏

京都市立芸術大学音楽科卒業後、ザルツブルグに留学。ラウンジピアニストとして、京都、サンフランシスコ、ベルギー、シンガポール、東京で活動。トルコでターヒル・アイドードゥ、チュニジアでジャミル・アビドにカーヌーンの演奏法と理論を学ぶ。イラク戦争時、バグダードから発信されたリバーバンドブログの出版に翻訳メンバーとして関わる。CDに「カーヌーンソロ・ヤスミン」「Children In IRAQ /イラクの子どもたち」などがある。



## イムラン ダルブッカ・レク(アラブの打楽器)/フルート演奏

上野学園大学音楽学部 音楽科卒業。先天性脳性麻痺による運動失調、眼球使用困難症を抱え、幼児期から身障センターでの訓練を続ける。音楽教室や劇団などでの歌唱指導、自身が苦しんだ経験から、心理療法を軸としたセラピールームを主宰している。墨田区の点訳会に所属。



## 古居みずえ ジャーナリスト・映画監督

ジャーナリスト、映画監督。アジアプレス・インターナショナル所属。1988年より紛争下における中東パレスチナで、とりわけ女性や子どもたちに焦点を当てて取材をおこなう。著書に『パレスチナ 戦火の中の子どもたち』(2015年岩波書店)、『飯館村の母ちゃんたち』(2023年彩流社)など。映画監督作品に『ガーダ パレスチナの詩』(2006年)、『ぼくたちは見たーガザ・サム二家の子どもたち』(2011年)、『飯館村の母ちゃんたち 土とともに』(2016年)、『飯館村 べこやの母ちゃん—それぞれの選択』(2022年)がある。

## ガザ女子学生日記とガザ母親日記

古居みずえ

2023年10月からイスラエルによるガザ攻撃がはじまり、多数のパレスチナの人たちが犠牲になっているが、海外のジャーナリストは一步もガザに入ることができない。何とかガザの状況を知るすべはないかと、私は現地の人たちと連絡を取り、応えてくれた人がサバラさん(23歳)だった。2024年11月から日記を書き続け、今も送り続けてくれている。

サバラさんはガザの大学で英文学を専攻している女子学生。爆撃の絶えない厳しい状況の中で、オンラインで勉強をするかわら、ガザの困っている人々を助ける仕事もしている。頑張り屋の彼女だが爆撃で何度も危ない目にあい、命からがら逃げた経験がある。ガザの惨状を少しでも世界の人たちに知ってもらえるならと今日も日記を送ってくれる。

もう一人、今回朗読はしないが、専業主婦のサマルさん(37歳)も2025年5月から日記を送ってくれている。サマルさんは4人の子どもの育てている母親で、以前取材したときに会ったことがある女性だ。ガザの状況や生活の様子だけでなく、サバラさんは若い人の気持ちを、サマルさんは母親ならではの気持ちを伝えてくれている。

👉 ガザ女子学生日記 <https://water.180r.com/>

👉 ガザ母親日記 <https://olive.x0.com/>

お二人の日記は

こちらのブログで公開中です!



## 会場ご案内

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

専修大学神田キャンパス7号館(大学院棟) 3階731教室

- ・水道橋駅(JR)西口より徒歩7分
- ・九段下駅(地下鉄/東西線、都営新宿線、半蔵門線)出口5より徒歩1分
- ・神保町駅(地下鉄/都営三田線、都営新宿線、半蔵門線)出口A2より徒歩3分

主催 古居みずえ支援の会



フォローよろしくおねがいします

